

## 第1回スポーツ団体組織統合検討代表者会議 議事録

【日時】 2023年2月16日 13:00~14:00

【場所】 名寄市文化センター大会議室

【出席者】

Nスポーツコミッション 加藤剛士、遠藤貴弘

風連町スポーツ協会 日根野正敏、菊池慎二、明石裕、筒井正隆

名寄体育協会 吉田肇、国府壮、梅野博、石川孝夫

【事務局】

松澤大介（名寄市）、黒井理恵（Nスポ）

【オブザーブ】

安澤豊（名寄体協）、名和谷香代（名寄体協）、山崎真由美（市議会） 荻野大助（Nスポ）、石橋毅（名寄市）、加勢雅善（アドバイザー/NPO法人ETIC.）

【議事内容】

1, あいさつ 加藤剛士

2, 報告 事務局

報告：これまでの検討会議の議事内容について

松澤：検討会議ではまずは風連と名寄で活動内容をお互いに確認しあい、仮に統合するのならば、どういった事業内容がいいのかということ検討してきた。その他に事務局レベルでの会議を開きたいということで一度、名寄体協、風連体協、名寄市で両組織の現状について共有し、今後の会議の予定について10月以降に話そうといいつつ、話し合われていない状態。

3, 議事

石川：5回の検討会議の中で、いつまでに統合するのかというスケジュールが出てきていない。それが出てこないと見えてこないし、動きようもないがどうなっているのか。

加藤：そもそもは名寄市としてはR5にはしたいと提案させてもらったが、それは難しい・早急なのではないかという意見をもらったので、まずは話し合いを進めていこうということでした。

松澤：そもそもはスケジュールを切っていた。むしろ決めていただけるのでは、決めてほしい。

加藤：決めてほしいということであれば、R5年度中というイメージでいる。どうでしょうか。

日根野：R5は妥当。リミットを決めて進んでいかないと進まない。進んでいってほしいと思う。

吉田：R5でいこう。決まったらすぐ前に進むのではないだろうか。

加藤：さまざまな課題があるとは思いますが、目先の課題として、部活動地域以降の話が出てきている。新組織で受け入れてもらいたいと思っている。急がなくてはならない課題もある。

筒井：これまで、検討会議ではクラブ活動などについて発言してきた。連絡協議会などはボランティアで運営しているのが現状で、Nスポの考え方とし子供たちのスポーツ環境を支えるというものがあるのがとてもありがたい。N スポがやっていることがメインになっていくのが新しい団体だろう。今後のステップとしては（どこかに吸収されるということではなく）、体協も一回解散して、同じ土俵に乗ってゼロからつくるといふことで考えていたが、それでいいのか？

吉田：その通りだ。

筒井：それなら早く組織体制を作っていく必要がある。検討委員会で話し合っているが、組織体制を早くつくる必要がある。それぞれの団体・競技団体がどのように組み込まれるかなど話す必要がある。

加藤：一応事務局案としては2月に提案予定でいるがそれでいいか。

日根野：資料2の今後の検討内容とあり、事務方会議で話すところがあるが、もう一緒になることが決まっているので、体協同士だけでなくNスポも含めてやっていったほうがいいのか？

梅野：統合ありきの話から進めていくと、新組織の在り方を決めて、名寄と風連がどうするかを考えたら。Nスポの事業には乗っかり・統合できるが、組織としては財団法人はNスポにのっかることはできない。できること、できないことを早く決めなくてはならない。目標がないと前に進まない。

遠藤：統合に向けて、「どんなことができるのか」を話し合いながら進めて行きたい。特に部活動の問題の改善に向けて、みんなと一緒にやっていけたら。

石川：それぞれの活動を一本化するということは、どこが変わっていくのか、いままでとちがうものはなにかをしっかりと伝えていく必要がある。いまの少年団活動をジュニア育成の形を変えていくか。こんなメリットがあるということを提示できないと理解は得られない。

<オブザーバーから一言>

加勢：とてもよい議論がなされていると思う。政府は子ども施策に金を付けることが閣議決定されている。こういうことを市は施策としてどう取り込んでいくかなど、スポーツだけでなく、広く捉えていく必要がある。部活動はどの地域も同じ課題を抱えている。今後、名寄が旗を振って広域連携で子供たちのスポーツ環境を維持していくかがポイントになるのを考えると、自治体でなく団体がやるメリットはあるだろう。

荻野：大学はスポーツ関連は直接はなさそうかもしれないけど、これからの時代は健康・予防が大事になってくる。食事・栄養は大学とも親和性が高く、大学側も大学の知を市に還元できる機会だと捉えている。現在 N スポと進行中の「なよろ健康レシピ開発プロジェクト」はまさにそれである。

山崎：名寄市の将来を作り上げている会議だと思う。少子化に伴う、部活動地域以降の問題もあるが、高齢者のフレイル予防とか、そこにつながる 30-60 代のスポーツ環境の整備について考えられる場になっている。いろんな人たちの思いがある。どうなっているか？という声が届いている。各競技団体とも議論が足りないと思っている。国や道のスポーツ協会との連携も大事だと思う。

安澤：いいことだと思う。事務方レベルとしての心配は一般財団としては法律上解散ができないので、どうしたらいいのかと思っている。

- ・新たな法人を作って新法人に吸収される。
- ・新たな法人を作って、新設法人をつくる
- ・名寄の法人を活用する。

の3つしか方法がないと思っているが、どうなっていくのか。

名和谷：期限が R 5 で目処はつけるということだが、今やっているものも含めて、実績やそれぞれ思いを確認しては？妥協できることと出来ないことがあると思う。

<決定事項と今後について>

- ・令和 5 年度中に統合する。
- ・今後のスケジュールは、すでに出しているパワポ資料をもとに、検討会議でより具体的に骨子を作っていき、資料を提示する。それを年度明けに各団体の総会などで、理事・競技団体に共有してご了承してもらうという流れになる。

以上